

舟石川・船場地区 村政懇談会

日 時	平成29年7月7日(金)	午後7時から9時まで
場 所	舟石川コミュニティセンター 多目的ホール	
出席者	村執行部(村長, 副村長, 教育長, 村長公室長, 総務部長, 村民生活部長, 福祉部長, 建設農政部長, 教育次長, 議会事務局長)	計10名
	事務局(課長, 課長補佐, 係長, 自治推進課職員2名)	計5名
	自治会長(船場区, 舟石川一区, 舟石川二区)	計3名
	自治会連合会(会長, 事務員1名)	計2名
参加者	舟石川一区34名, 舟石川二区7名, 船場区13名, その他52名	計106名
司会進行	舟石川・船場地区自治会企画総務部長 鹿志村 直也	
		総計126名

《次第》

開会のことば

1. 出席者紹介(自治会長及び村執行部)
2. 舟石川・船場地区自治会長挨拶
3. 村長挨拶並びに村政の説明
4. 質疑応答
5. 舟石川・船場地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
6. 質疑応答
7. 村政に関する意見交換会(自由質問)

閉会のことば

《記録》

【4. 質疑応答(村長挨拶並びに村政の説明)】

舟石川一区住民: 3年前にも村長に避難の問題を伺ったが, 県から来ている計画を丸呑みして, その数字を当て込む形で取手市に固執しているようだが, 地震はどこが震源になるか分からない。その想定で今月末も訓練をやるようだが, 取手市は3割4割が河川敷に建っている街。地震学者は, 今でも伊豆房総半島が隆起しているということを書いており, 最近も茨城に近いところが震源地となり, 複合的に地震が起きる場合がある。にもかかわらず, 取手市又はその近辺に行くというただ一点だけでは困る。他の施策は我々はよくわからないが, 再度申し上げたいのは, 村にしろ, 県にしろ, 国にしろ, 第一義的なものは, 住民の命と財産を守ること。それが震災になったときに大事なこと。実際に想定外の地震, 想定外の原発事故が起きている。3年半前に原対課で住民の意見聴取会を開いた。納得してそれでいいと言ったのは1名だけだった。それ以外の数十人は2時間オーバーし, 色々な意見が出た。にもかかわらず, 原対課では取り上げず, 咀嚼もしていない。やりながら変えていくと言うが, 避難訓練もまだ

舟石川・船場地区 村政懇談会

やってない。あの震災から6年が経とうとしている中で、遅々として進まないものでいいのか。県のお仕着せの計画で、県が言うから取手市に逃げるというのでは、不安感が拭えない。

村長：そのような意見を他にも聞いている。私もそう思っている。本当に申し訳ないが、今は、計画の前提が原子力の単独災害事故になっている。だから、地震での被害がないので、計画するルートの道路がそのまま使えるというのが前提条件。しかし、それはごくまれな条件。複合災害はどうなるのかということは、県にも言っている。村でも研究しなくてはならず独自に考えている。説明会するとき基本形だという話をしたのはそういう意味。これが全てではない。複合災害のときの対応については、県もやらざるを得ないと認識している。ただ、避難先が、UPZ県内に14市町村あり、どこかの避難先が変わると連動してくるので、すぐに出来ないというのが県の言い分だ。そうは言ってもやらなくてはならないので、一度基本形を作った上で、複合災害で高速が使えない場合は西の方に行くのかとか、風向きの問題などもあるので、色々なパターンをつくらなくてはならないと思っている。県とは新たな対応についての研究をしていこうと話を進めている。皆さんに紹介できるまでは至ってないが、そういったことも同時に行っている。まだまだ遅いと言われるかもしれないが、もう少し時間をいただきたい。

舟石川一区住民：前から原対課の係長2人には話をしているが、こういう形のものは福島3.11を見ても、同じ原発を立地している地域との連携が必要ではないかと思う。近くでは避難先とならないので、例えば新潟県の柏崎刈羽原発のある柏崎市と提携し、重大事故が起きた場合には、そちらに避難するというような提携のほうがより具体的と思う。取手市以外に避難先がないというと大変で、お叱りを受けるかもしれないが、今のままでは被爆しながら、三々五々逃げるしかない。今の一斉送信ができる時代に、5キロ圏内の東海村民だけが逃げるのはおそらく無理と思う。そういう事故の時には、行政も甘いことを言わずに、なるべく被爆させない方法で村も考えるが、三々五々逃げると、はっきり提示してもらった方が村民は納得すると思う。もう一つ、大地震や原発事故であれば、5キロとか、10キロ圏内で車中泊しながら避難できるような場所を貸していただき、そこで第二次避難は20キロ圏のこことか、その一つが、被災していなければ取手市だよというのであれば分かるが、取手市だけというのは想定が甘いのではと思う。

舟石川一区住民：(仮称)歴史と未来の交流館について質問する。一番の問題は、理解がどれだけされたのか、それをどのように評価するのかだと思う。一番単純なのは住民投票で、村民がどう考えるか、どう理解したか分かる。そこまでやらないと心配だが、村長の考えを伺いたい。

舟石川・船場地区 村政懇談会

村長：先ほど決意を申し上げたが、私は推進する立場で説明をしているので、最初から住民投票にかけるということは、今のところ考えていない。住民投票を否定はしないが、村の政策を、村がきちんと説明責任を果たさないまま、住民に考えてください、住民が決めてください、決めた方にするから、というのはどうかと思う。住民投票一本は特別な場合と思う。住民投票は相当限定しなければならない。交流館の建設について、きちんと説明をすれば分かっていただけという思いは持っている。もう少しその努力をさせていただきたい。

【6. 質疑応答（舟石川・船場地区自治会からの事前質問・要望に関する回答）】

質問—1 東海駅西での自転車貸出について

質問なし

質問—2 路線バスの運行見直しについて

舟石川一区住民：東海駅西口から水戸駅に向かっているバスが、朝に1本あるはずだが、資料にカウントされてない。なぜカウントしないのか。

村長公室長：この路線に関しては、茨城交通の通常の路線として運行している。茨城交通として採算が取れているということだ。村で支援していない路線なのでカウントしていない。

【7. 村政に関する意見交換会（自由質問）】

舟石川一区住民：再来年の国体に合わせ行われる東海駅西口の駅前広場の整備工事について要望がある。昭和48年に整備の話が持ち上がってから40年、なかなか工事が進まなかった。駅西口の方が、駅東口よりロータリーが狭いが、利用者が多い。昭和59年の計画の青写真が村のHPに載っているが、バスのブースが4つ、タクシーのブースが7つ、駅東口と同じくらいのロータリーだった。これはなかなか美しいと思う。今、平成27年時点の計画を見て、あれっ、と思った。今、車が停められるところがタクシーブース9つになり、一般車は3、4台、バスが1台停められるようになっている。これを知ったのは最近で、今駅前に予想図が置いてあり誰でも見られるが、ちょっとどうかと思う。日立駅だと、1日の乗降客数が11,500人で、多く見えるが、東海駅の2倍くらい。バスのブースは9つあり、車寄せの代わりに駅前30分無料駐車場が24台ある。階段口にも8台あり、車で来ても非常に使いやすい。日立駅前の新都市広場にも地下駐車場があり、車で来ても500台は停められる。もう一つ、常陸多賀駅にもロータリーがあり、バスが結構停められる。一般車は駅前に入れないが、ダブルロータリーになっており、一般車の車寄せがあり、横断歩道ですぐ駅前に出られるようになっている。しかも、パークアンドライドといって、特急券を買

舟石川・船場地区 村政懇談会

うと4日間無料で停められる駐車場が216台分ある。車とうまく使えるようになっている。今回の駅西の駅前整備計画は、車にとって非常に使いにくい。

建設農政部長：車の利用が不便になるという話と思う。駅西区画整理事業は昭和48年の施行開始から43年、44年が経過し、残っているのが駅前広場と思う。当初よりは乗り降りする人が減っており、車の計画台数も当初1万人を予定したが、今は5千人で半分になっていることから、2車線のところを1車線に計画変更している。広場に関しても人や自転車にやさしい広場として計画している。今ロータリーの真ん中にある駐車場は、交番の水戸側に移す予定で計画している。日立駅や多賀駅はバスが停められるとの事だが、バス路線も当初から比べると台数が減っているため、現在は、乗り降りスペースともう1台、タクシーは9台で計画している。広場全体で、人と自転車を中心に、安心して通れる一帯にしたい。駅前広場、ラーメン屋の船場竹瓦線の通りまでは、歩道と自転車と路肩、車道という形で計画している。ただ、自転車については、国体もあるが、どのくらい利用者あるかということもある。以前、エコりん等で笠松運動公園へ行く方は近道を使っていた等の現状もあり、実態と誘導方法、利用者の人数も調べながら、検討したい。

舟石川一区住民：自転車に関しては何も言ってない。今、駅前はずいことになっている。6月30日にロータリー内のコインパーキングが閉鎖され、雨の日などは迎えに来る車でいっぱい2重駐車になっている。そこに笠松帰りのバスなども来て、駅前がパンクしそうになっている。こんな状態で、今後も車寄せにパーキングを作らないとなると、他の駅と比べても相当見劣る。私は自転車が好きだからいいが、年を取った方は皆自転車に乗れるわけではない。車で送ってもらう方が年を取るほど多くなる。10年20年もすれば、駅前で手を上げると運転手のいない自動運転バスが停まるかもしれない。そういったものも見越して、バスも車も止まれる整備計画にぜひ見直してもらいたい。まだ工事に取りかかっておらず、国体まで2年ある。豊洲市場は工事が終わってから騒いでいるが、もうちょっと知恵を集めて検討してもらいたい。

建設農政部長：まだ間に合うとも言われているが、まずは車を広場に入れないということを考えて、今回の広場の形で計画した。その後、駅前広場から船場竹瓦線間の自転車道の話もしたが、路肩への駐車による渋滞は、ロータリー内のパーキング閉鎖よりは、送迎の方、特に迎えに来る方が5分10分前から待って停まっていることが原因になっているのかと考えている。そういう意味で、路肩を使われてしまうのは、一時的にはやむをえないのかなと考えている。

村長：回答が前後してしまうが、正直、計画は進めている。今すぐあそこに公共駐車場を作るのはまず無理だ。周辺にも月極め駐車場がいっぱいあり、村の土地ではないので、周辺民地を借り上げて村が公共の駐車場を作るのは、月極めで土地利用してい

舟石川・船場地区 村政懇談会

る人との関係もあり、これは東口もそうだが、なかなかそこはやりづらい。コインパーキングを1回作ったが、タクシープールは今のままではまずい。道路沿いにあんなにタクシーが並んだのでは危ない。タクシーをまず真ん中に移すしかないと考えて、申し訳ないが公共駐車場は外れて別のところに行っている。駅西では村が使える土地がない。もし地権者の協力があり、公共用地として使って良いよというところがあれば考えられるが、地権者さんも月極めで貸しており、利益もある。利用者さんがどれだけ利用するかというのもある。当面、今の計画を直すことはできないが、その後、その周辺で公共駐車場が確保できるかは、地権者と話をしなくてはならない。今のところ、すぐ計画を変更するのはできない。そこはご理解いただきたい。ただ、結果的に一時的に動かすことでかなり渋滞しているところについては、どんな対応策がとれるか答えられないが、認識はしている。いずれにしても、あの前に土地がないということをご理解いただいて、その土地をどう確保するかも住民の方々の協力を得ないとできないため、いろんなハードルがあるが、最初から出来ないというのではなく、検討研究はしていきたいが、今の時点ではそういう答えということで、ご理解いただきたい。

舟石川一区住民：近隣公園が家の近くにできた。あそこに遊びに来る親子がたくさんいるが、駐車場が少ない。駐車場について役場で考えてほしい。近場に良い公園ができたが、近くの人々が迷惑になっている。駐車場についてももう少し考える余地があると思う。

建設農政部長：当初、近隣公園の周囲500メートルの方が歩いてこられる形で計画した。現状、車で来る方が多くなっており、道路上に車を止められて迷惑していると、村にも電話をもらっている。もう少し駐車場を、ということだが、増やすとすれば周りの土地を確保して作るという形になり、用地も考えなくてはならない。公園の中に駐車場を増やしては、遊具スペースがなくなるので、周りに検討できればと思う。約束は今できない。

舟石川一区住民：駐車場に関しても、軽自動車は軽自動車、大きい車は大きい車と分けてやってもらい、公園の中の東側の植え込みなどを再整備してはどうかと思う。

建設農政部長：意見としていただいて、検討の中に入れてたい。

舟石川一区住民：去年も質問した。広域避難の話もあるし、敬老会を来年から止めるという話を聞いている。その代替として、やれるところは敬老会を地区でやってくれといわれているが、ホールが狭い。駐車場も狭い。広域避難で30台のバスがどうやって入るのか。考えただけで不可能と思う。去年も、コミセンに隣接する駐車場候補地を、私が行って交渉してきたが、まだ解決していない。具体的にそこにワンスパン土地があるので、ワンスパン延ばして欲しいと去年もお願いした。できるまで質問し続けたい。

舟石川・船場地区 村政懇談会

村民生活部長：まず、駐車場は、村内部では政策会議という会議があり、その中で新たな用地と正面のケヤキのところを直して駐車場を増やしたいと考えている。駐車場についてはもう少しお時間をいただければ解決できると思う。問題はワンスパン延ばすという話だが、実際に延ばすとなると、費用が掛かるのは現実にある。今回6コミセン歩いて来ているが、例えば、村松コミセンには舟石川コミセンにあるような舞台は無い。仮に、考え方として、このスペースを広げたいのであれば、例えば舞台を取っ払ってやるというのが、現実的な考え方なのではないかと思う。これが大切ならば残す必要があるが、村の当面の考え方の中でスペースを広げるのであれば、舞台を減らすほうが現実的かというのが私の答えになる。

舟石川一区住民：そういう答えであればこちらも引き下がれない。村松コミセンのホールはこの2倍3倍の広さがある。あれは体育館。だから、何かをやるにも余裕がある。舟石川だけはこんなに小さい。できないと言われると、使っている人は毎回不便を感じる。そこを考えていただきたい。村松コミセンに舞台が無いというのは関係なく、話にならない。

村民生活部長：コミセンを作るときには、その当時の代表の住民の皆さんと、どういう形がよいかと検討委員会を作って話し、コミセンを作った事実はある。時代にあっていないというのは分かるが、私がすぐに作る、という答えはできない。

舟石川一区住民：村政懇談会だから、今やるという答えは求めている。ただ検討してもらって、使いやすいように考えてもらいたい。それだけ。皮肉にも、去年の村民生活部長がコミセンのセンター長になっている。今不便を感じていると思う。よろしく願います。

船場区住民：私達が使っている村道2254号線について。東海眼科の脇から入り、舟石川幼稚園から来た道路と突き当たったところから2254号線になる。平成25年度にこの道路の舗装をしてくれないかという要望書を出した。それから5年経つ。毎回のよう要望書を出しているが、いつも、住民の方と話し合っ進めるという回答だ。ところが、平成28年度の区の総会するとき、平成29年度に説明会を実施して、意見がまとまったら調査を実施する、という村の回答をもらった。そこで、できる限り早い時期に説明会を実施してもらいたい。村で計画があるのであれば、早い時期に説明会を開いていただきたい。

建設農政部長：平成25年度と平成28年度に自治会から要望があり、昨年答えている。今年度、現地調査と現況測量を行う予定。道路幅については地元の方と協議したいと考えている。

船場区住民：地元の方との話だが、平成25年度の要望の際に、通りの方の同意書を付けて提出している。ですので、説明会をしてもらえれば問題ないと思う。できる限り説明会を実施し、早急に進めてもらいたい。

舟石川・船場地区 村政懇談会

建設農政部長：地権者に早く説明をする。測量調査や現況調査を行い、地権者の方に説明会を実施する。

船場区住民：地権者はもちろんだが、同意書に名前を書いている利用者にも、説明をしていただきたいと思っている。利用者はほとんどが地権者だが、中には畑の方など地権者以外の方もいる。道路を利用する方を集めて説明会を実施してほしい。

建設農政部長：この路線名はやる方向で測量し、地権者や借地等で利用される方にも説明会を行う。

舟石川一区住民：近隣公園で犬を連れている人が結構いる。注意書きには、犬の糞の後始末をしろということになっているが、逆に言うとそれ以外はどうでもいいのか。都市公園条例を読んだら、「汚物」を捨ててはいけませんと書いてある。それがなぜか、看板には「糞」を後始末しろとある。私からすれば、条例をそのまま書けば、「汚物」を捨ててはダメと書けばいい。条例があるのに条例の意図しないことを注意書きに書くのは問題でないか。注意書きを条例に即したものに変わっていただきたい。

建設農政部長：条例に即して、同じ言葉ではなく、ある程度皆さんに分かりやすい表現にしたのだと思う。ただ、表現が分かりづらい所や、付け加えたほうがいい所があれば、検討していきたいと思う。

舟石川一区住民：汚物を捨てないというほうが分かりやすい。糞を捨ててはいけないだと、逆に糞以外は捨ててもいいと読まれるので、条例に沿って書いてほしい。それだけだ。

建設農政部長：今の意見をいただき、分かりやすい形を検討していきたい。

舟石川一区住民：毎年似たような場所の質問をしている。駆け上り動燃線の正気館の所から五来クリーニング店にかけての所に信号が無い。変則十字路となっており、車や自転車がノンストップで入ってきて、見ていると小学生やお年寄りが危ない。この状況を何とかしていただきたい。

建設農政部長：五来クリーニングの中に入ったところか。懇談会後に現場を詳しく教えていただき、みちづくり協議会もあるので、その中で検討していきたい。

舟石川一区住民：これは毎年言っている。今さらみちづくり検討委員会で再検討というのもどうなのか。はっきりしていただきたい。事故があってから直すのか。起きる前に直すのが普通なのではないか。場所も良く分かっているはずだ。

都市整備課長：代わりにお答えさせていただく。現場だが、駆け上がり線と接続する抜け道の道路、この抜け道を走ってくる自動車が、駆け上がり線に出たいために、横断歩道をまたいで自動車を停車させ、駆け上がり線の歩道を真っすぐ歩いて渡ろうとする人の流れを止めてしまう。それは、自動車のための信号機が無く、駆け上がり線に、

舟石川・船場地区 村政懇談会

その抜け道の道路から直ぐ出られるので、抜け道にしてしまう。

横断歩道の手前で自動車が止まってしまうと、駆け上がり線の自動車の流れが見えない。見るために横断歩道を自動車がまたいで、駆け上がり線の自動車の流れを見ながら、途切れたら右折左折する車が多く、そこを何とかしないとダメだと思っている。警察と協議してやっていきたいと思うが、今はまだ改善されないということだと、抜け道を使っている車を規制していく方法とか、合流するところの抜け道の自動車をどうするかを、信号機と一緒に考えていかななくてはならないと思うので、宿題とさせてほしい。

村長：基本的に交通規制になるので、信号を付けたらとか付けないとか、一時停止はあると思うが、いずれにせよ、通常は現場でひたちなか警察署に来てもらい、こういう状況で危ない、付けないのかとやる。やるのだが、警察は結構対応が遅く、そんなに交通量がないところだと、警察が信号を付けるのは相当ハードルが高い。今回、勝木田下の内線の中丸小学校のひたちなか方面に行く一番低いところに信号が1つ付いたが、本当は五反田線にも2つ信号を付けたかったが、一度に2つもつけられない片方だけにしろということで、予算の話もあり1つしか付けてもらえなかった。今回あの場所は斜めなので、本当に見づらいので、きちんと信号を付けるしかない。警察とやりあうしかないなので、少なくとも現場をちゃんと見てもらい、場合によっては私がひたちなか警察署長と話をする。毎年言われ、今までやってこなかったのは、申し訳ない。もう少し時間をください。

舟石川一区住民：今度、自転車道路が出来るということで、2車線が1車線になるのですよね。そうすると、富士山線が今2車線だが、1車線になれば道路を横断できるようになるのか。区画整理の中の生活道路で不便なのだが、どうなのか。

建設農政部長：駅前から東海駅西口の十字路を抜けた先の中央分離帯を閉じたところでしょうか。以前、役場の前から五来クリーニングを抜け舟石川までの道路が抜け道になっており、社会実験をやりながら、皆さんと思いやりの道を検討したときに、安全のためあそこを閉じた。今後、富士山線が1車線になるかはまだ検討していくのだが、安全のためにあの中央分離帯を閉じたという経緯があるため、そこを再び開ける話は、意見として伺いたい。

舟石川一区住民：そうすると、区画整理は地元の人が不便になるというようなやり方なのか。本当にぜひ前の道路と同じようにやって欲しい。以前は、2車線になるから、あそこは通れないと言った。今度は1車線になるなら、通れるのは当然ではないか。

建設農政部長：今おっしゃった箇所まで1車線になるかは今後検討していく。この場でやるとは言えないため、ご意見として伺いたい。

舟石川一区住民：先ほどの村長の話に「人材の掘り起こし」というテーマがあった。

舟石川・船場地区 村政懇談会

中には、なるほど、ということが書いてある。そのとおりだと思う。ただ、具体的にどの様に考えていくのか、今回、回答は結構だが、ぜひ検討してもらいたい。関連することとして、今、自治会の加入率が非常に低い。舟石川一区は42.7%、50%を切っている。ということは、ここにいる人はほとんど自治会加入者と思うが、人口は3地区合わせれば何千人かいるが、参加者はこの人数なので、これが全体の声では決して無いと思う。ひとつ提案だが、「地域の人材を掘り起こし、新たな人と人とのつながりによるネットワークを網の目のように広げていく」、これを具体的にやるには、自治会と村とが一緒になって検討する組織なり仕組みを作らないと進まないと思う。何年か前にも加入率が低いという質問があった。その時聞いたのは、行政としては住民課で転入者にはパンフレットを渡している、という程度であった。それでは絶対増えない。いろんな問題はあると思う。自治会に魅力が無いと言われると困るが、それもあると思うが、加入率を増やしていく、地域おこしもやっていく、村と一緒にやっていくということを考えれば、もう少し具体的に行政と自治会とが話し合う機会を作り、何ができるか、何をやろうかという組織を作って、進めていただきたい。もうひとつ、いろんな情報発信をしていくことも必要。情報発信は自治会としてもやっているが、自治会は自治会の会員だけにしか行かない。自治会活動は加入していない人には分からない。これを解決するには村が手助けをして、イベントなりで地域の自治会活動を一緒にPRしていかないと、自治会に入っていない方は知らない、知りたくも無い、無関心となってしまう。具体的に加入率を上げていこう、新しい街づくりをやろう、ということであれば、ぜひそういうことも考えてもらいたい。

村長：ありがとうございます。おっしゃるとおりで具体策が無いと言われている。今回、舟石川・船場の地区社協でやったポイント制度というのがある。これは地区社協の中だけだが、元々、自治会活動はボランティア精神でやっていたと思うが、そこを無償ではなく、一定程度のちょっとしたご褒美があってもいいと思う。そこでメリッ ト感を出すというのはありだと思う。それを商工会のポイントサービスと連動するとか、自治会活動に参加した人、お手伝いした人にご褒美があるのはあってもいい。そういうことで、何とか関心を持ってもらう。情報提供は、一番手っ取り早いのは「広報とうかい」に載せること。それができるかできないかは、今までも検討して、なかなかやれていないが、今までは今までとして、これからは思い切った発想でやるのも必要だと思う。アパートの人は難しいかもしれないが、少なくとも戸建の人だけは何とか入ってもらえるように、働きかけだけでなく、入ってもいいかなと思ってもらえるメリッ トをつくらないとだめだと思っている。今回地区社協がやっていることが、いい効果を生んで、それを別なところに展開していくということも考えたいと思うので、具体的な対応策を考えていくので、ぜひよろしくお願ひしたい。

舟石川・船場地区 村政懇談会

以上